

TANOHATA GEO WORLD

特集

TSUNAMI

—津波—



平成23年3月11日 15時25分
津波第1波が田野畑村沿岸を襲った瞬間



平成23年3月11日
津波第2波

平穏な田野畑村の海

田野畑 エリア マップ

0 500m 1km 2km

「ジオ」の脅威と向き合い、 この大地と共に生きていく

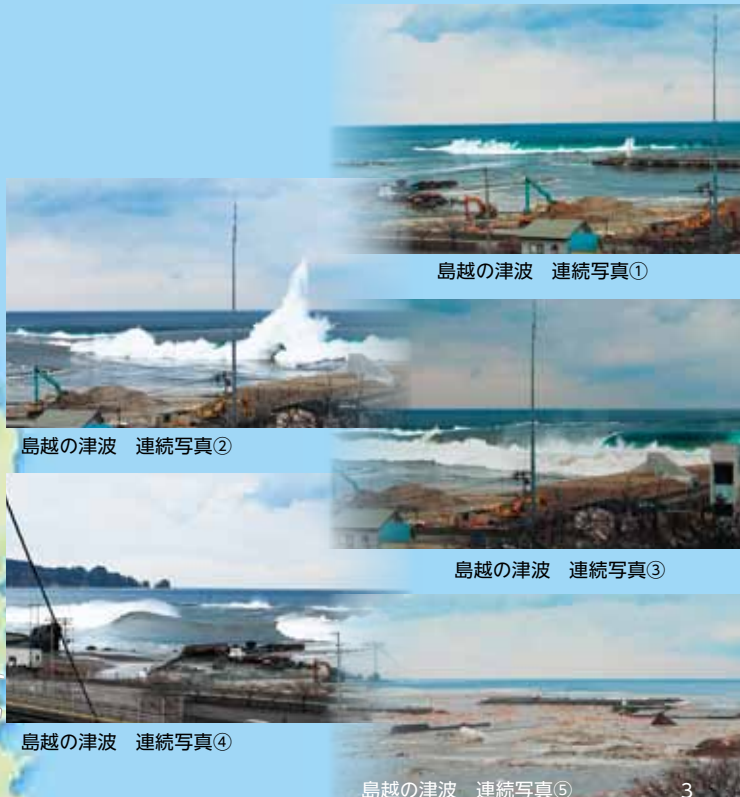
田野畑村の北山崎や鶴の巣断崖は、三陸海岸有数の景勝地とされ、訪れるたくさんの人々を魅了します。浜人の生業は、四季を通じた豊かな海の恵みにより古くから続けられており、断崖景観に溶け込み生きる姿や漁村の町並みが訪れる人の心を癒す旅は「番屋エコツーリズム」として親しまれてきました。

平成23年(2011年)3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、巨大な津波に姿を変え、東に青く広がる水平線の彼方から海岸線に押し寄せました。「東日本大震災」と命名された国内観測史上最大規模の自然災害は、特にも津波による被害が甚大で、計り知れぬ地殻エネルギーの脅威と人間が築き上げてきた災害対策の限界が明らかになりました。

被災地では、辛く悲しい現実と直面し、避難生活を送る人々が語り部として立ち上がり、来訪者や修学旅行生に当時の悲惨な体験や命の尊さを伝えていきます。海岸線には、巨大な津波石や白亜紀の津波痕跡とされる地層も真近に見ることができます。

三陸沿岸では、大きな傷跡を残しながらも再び自然の脅威と向き合いつつ復興へと歩み、「三陸ジオパーク」として地域の新たな魅力発信に取り組んでいます。

地球の脅威と人間との関わりを体感し学ぶため、「たのはたジオワールド」にぜひ足をお運びください。



島越の津波 連続写真①

島越の津波 連続写真②

島越の津波 連続写真③

島越の津波 連続写真④

島越の津波 連続写真⑤

もうこんな辛い思いをしないためにあの大津波を語り継ぐ!

「大津波語り部」

- 料 金
- ・2名様 2,500円/1人(1人のみ5,000円)
- ・3~5名様 2,000円/1人
- ・6~10名様 1,500円/1人
- ・団体向け ガイド1人15,000円
(ガイド1人につき、15名まで)

- 時 間 1時間(団体向け2時間可)
- 集 場 所 三陸鉄道田野畑駅
- 予 約 前日17時まで(当日も応談可)



NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
TEL:0194-37-1211 FAX:0194-33-3355

大津波

田野畑を襲った

故郷の惨状 島越地区



三陸鉄道の駅舎と橋脚が破壊された



島越地区浸水状況 浸水エリア



破壊された防潮堤、鉄筋がむき出しとなった水産施設



岸壁に叩きつけられ、めり込むように打ち上げられた漁船



松前川に沿って形成されていた町並みがすべて消えた



島越漁港は漁業と観光の拠点だった



かつての三陸鉄道島越駅。おしゃれな駅舎は観光の玄関口だった

故郷の惨状 **羅賀地区**



ホテル羅賀荘は3階まで浸水した



震災以前の羅賀地区



震災以前の平井賀地区

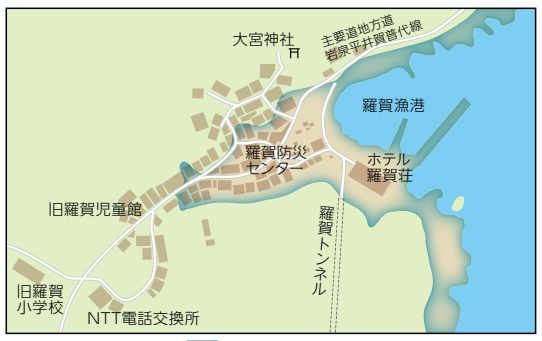
故郷の惨状 **平井賀地区**



羅賀地区。家々が折り重なるありえない光景が広がる



津波は湾口を突破し、暮らしのすべてを奪っていった



羅賀地区浸水状況 浸水エリア



平井賀地区浸水状況 浸水エリア



震災後の明戸浜全景



故郷の惨状 明戸地区



ガレキが集められたお魚センター付近

故郷の惨状 机地区



上／震災後の机浜番屋群 下／震災以前の机浜番屋群



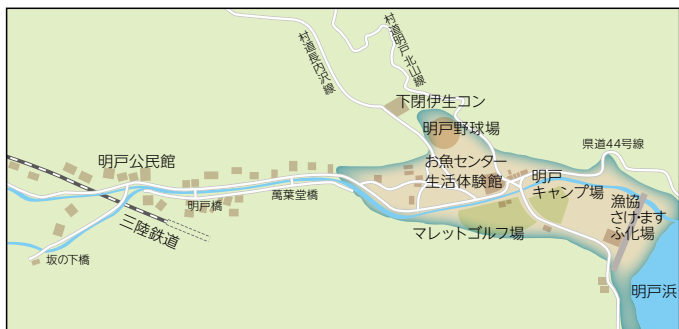
上／震災後の机浜
下／震災以前の机浜



震災以前のキャンプ場



震災以前の明戸浜全景



明戸地区浸水状況 浸水エリア



震災以前の机浜。ワカメ作業の様子



観光 被災した主な施設



かつてのホテル羅賀荘。北三陸の観光拠点だった



ホテル羅賀荘を襲う津波



第1波直後のホテル羅賀荘

水産



かつての魚市場



震災後の魚市場。建屋すべてが流失した



震災直後の状況

交通



かつての島越駅と海水浴場。三陸鉄道が走る



震災後の惨状



倒壊した駅舎と橋脚



避難所に支援物資が届く



震災直後、避難所での生活



仮設住宅の建設が進む(平成23年7月頃)

東日本大震災の被害状況データ



2011.3.11 14:46 M9.0地震発生 15:25大津波襲来

平成23年(2011年)3月11日14時46分18秒、宮城県牡鹿半島の東南東沖約130kmの海底を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、国内観測史上最大規模のM9.0を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及びました。この大地震と大津波による死者は15,899人、行方不明者は2,527人に及ぶなど、東北地方から関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。(死者、行方不明者数は令和2年12月10日警察庁広報資料より)

各地の震度

震度7	宮城県栗原市
震度6強	宮城県登米市、大崎市、名取市、仙台市、塩釜市、東松島市、福島県白河市、須賀川市、二本松市、茨城県日立市、笠間市、筑西市、鉾田市、栃木県大田原市、宇都宮市、真岡市
震度6弱	宮城県気仙沼市、白石市、角田市、岩沼市、石巻市、福島県郡山市、田村市、伊達市、いわき市、相馬市、南相馬市、茨城県常陸太田市、水戸市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、小美玉市、土浦市、石岡市、取手市、つくば市、鹿嶋市、坂東市、稲敷市、かすみがうら市、行方市、桜川市、つくばみらい市、栃木県那須塩原市、那須烏山市、岩手県大船渡市、釜石市、花巻市、一関市、奥州市、群馬県桐生市、埼玉県宮代町、千葉県成田市、印西市
震度5強	福島県本宮市、福島市、会津若松市、喜多方市、茨城県古河市、結城市、龍ヶ崎市、下妻市、牛久市、守谷市、常総市、栃木県日光市、矢板市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、小山市、さくら市、下野市、岩手県宮古市、盛岡市、八幡平市、北上市、遠野市、群馬県沼田市、前橋市、高崎市、渋川市、埼玉県熊谷市、行田市、加須市、東松山市、羽生市、鴻巣市、深谷市、久喜市、川口市、春日部市、草加市、戸田市、三郷市、幸手市、吉川市、さいたま市、千葉県東金市、旭市、香取市、山武市、千葉市、野田市、佐倉市、習志野市、柏市、八千代市、浦安市、白井市、青森県八戸市、秋田県大仙市、秋田市、山形県上山市、尾花沢市、米沢市、東京都千代田区、江東区、中野区、杉並区、荒川区、板橋区、足立区、江戸川区、横浜市、川崎市、山梨県中央市

(気象庁、国土地理院、日本気象協会)

津波

津波警報	3月11日14時49分発表
津波波高	11.8メートル(観測地点:岩手県大船渡市)
津波浸水高	18.3メートル(調査地点:岩手県釜石市両石湾)
津波遡上高	40.03メートル(調査地点:大船渡市三陸町綾里南側湾口)
津波の遡上距離	48.88キロ(調査地点:北上川/宮城県登米市大泉)
浸水範囲面積	561平方キロ

(気象庁、国土地理院、国土交通省、総務省統計局)

人的被害・建物被害

区分	人的被害					建物被害								
	死者	行方不明者	負傷者		合計	全壊	半壊	全焼	半焼	床上浸水	床下浸水	一部損壊	非住家被害	
			重傷	軽傷										人
北海道	1		3	3						329	545	7	469	
東北	青森	3	1	26	86	112	308	701				1,006	1,402	
	岩手	4,675	1,111		213	19,508	6,571	33		6	19,064	4,707		
	宮城	9,543	1,216		4,145	83,005	155,130	135		7,796	224,202	26,796		
	秋田			4	7	11						5	3	
	山形	2		8	21	29						21	96	
福島	1,614	196	20	163	183	15,435	82,783	77	3	1061	351	141,054	1,010	
東京	7		20	97	117	15	198	1				4847	1,101	
関東	茨城	24	1	34	678	712	2,635	25,013	31	75	624	191,581	22,590	
	栃木	4		7	126	133	261	2,118				73,552	295	
	群馬	1		14	28	42		7				17,679		
	埼玉			7	38	45	24	199	1	1		1,800	33	
	千葉	21	2	30	233	263	801	10,155	15	157	731	55,081	660	
	神奈川	4		17	121	138		41				459	13	
	新潟				3	3							17	9
	山梨				2	2							4	
	長野				1	1								
	静岡			1	2	3						5	13	
中部	岐阜													
	三重				1	1				2			9	
四国	徳島									2			9	
	高知				1	1				2			8	
合計	15,899	2,527	188	1,611	6,157	121,992	282,920	297	1,628	10,076	730,392	59,193		

田野畑村の被災状況

東日本大震災において、田野畑村では震度4の揺れを記録しました。その後、最大遡上高(津波が陸上を駆け上がった際の最大到達高度)25.5mの大津波が襲来し、沿岸部では壊滅的な被害を受けました。

震度	震度4	14時47分08秒
	震度4	14時48分00秒
	震度3	14時49分00秒
	震度3	14時50分00秒
津波到達	15時17~21分ごろ	平井賀で引き潮を観測(※デジタルカメラ撮影時間から)
	※第1波到達は、地震発生の約38分後、15時25分頃と推定される	平井賀沖に津波を目視(※デジタルカメラ撮影時間から)
	15時25分	羅賀荘に津波到達(※携帯電話の写真記録時間から)
津波遡上高	25.5m	平井賀漁港海岸(漁港海岸の痕跡)
	23.7m	島の越漁港海岸(漁港海岸の痕跡)
	11.6m	嶋之越海岸(嶋之越水門上屋の痕跡)
避難等の状況	3月11日14時46分	災害対策本部設置
	14時49分	避難指示発令
	14時58分~	水門閉鎖
	15時3分	全水門(13)閉鎖完了
	3月20日18時	現地規制解除

人的および住家等被害(平成28年3月31日現在)

区分	被害内容					
人的被害(村民)	死者26人(うち震災関連死3人)、行方不明者15人、負傷者6人					
住家被害	被災住家数281棟、被災世帯251世帯、被災者数734人 (単位:棟)					
	区分	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	計
	机	1				1
	明戸	4	4	1	1	10
	羅賀	99	9	14	5	127
	島越	121	9	8	4	142
	他の地区				1	1
計	225	22	23	11	281	
非住家被害	311棟(一部損壊以上)					

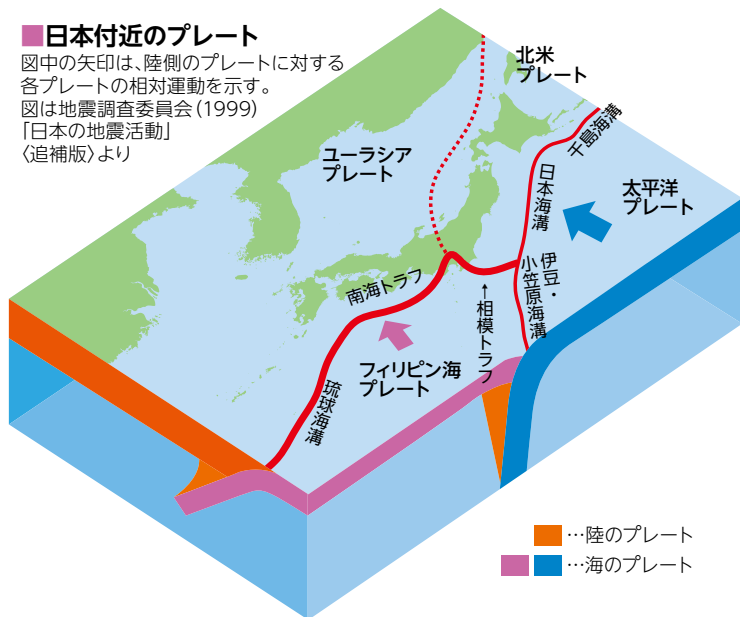
物的被害(平成28年3月31日現在)

区分	項目	概算被害額(単位:千円)	主な被災箇所
田野畑村等管理	住家	3,911,270	上記被害内容のとおり
	非住家	1,038,370	同上
	社会福祉施設	236,809	いこいハウス・マレットゴルフ場(立木含む)
	社会教育施設		
	消防施設	152,003	防災センター1 積載車1 消火栓16 防火水槽1 戸別受信機284 他設備15
	観光施設	1,355,500	羅賀荘他観光施設(民宿除く・遊歩道含む)
	商工関係被害	1,156,300	設備・商品等
	ガス施設	292,405	製氷・冷凍・貯蔵・その他(LP)
	水産関係	4,712,178	水産施設222 漁船477 漁具419 養殖施設720
	漁港施設	5,057,800	外郭施設16 係留施設9 水域施設3 輸送施設5 用地3 海岸施設1
	家畜関係	3,240	生乳36t
	林業関係	32,427	林業施設1 林産物39千本 森林23.93ha
	公共土木関係	427,786	河川7箇所 道路19箇所 橋5箇所
	公営住宅	40,000	島越4戸
	漁業集落排水施設	568,000	2施設
	水道施設	120,000	2施設
	計	19,104,088	
岩手県等管理	林業関係	40,579	多目的保安林1箇所 湖害防備保安林1箇所
	漁港施設	7,257,983	外郭施設12 係留施設7 輸送施設4
	海岸施設	1,685,115	水門 門扉等
	公共土木関係	632,838	河川2箇所 道路6箇所 橋4箇所
	鉄道施設	1,550,000	三陸鉄道施設
計	11,166,515		
田野畑村被害額合計		30,270,603	

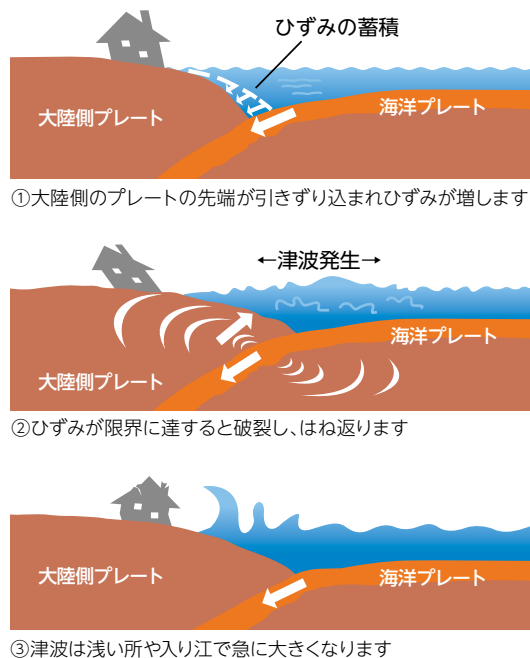
地震と津波のメカニズム

■日本付近のプレート

図中の矢印は、陸側のプレートに対する各プレートの相対運動を示す。図は地震調査委員会(1999)「日本の地震活動」(追補版)より



■プレート境界型地震が大津波を引き起こすメカニズム

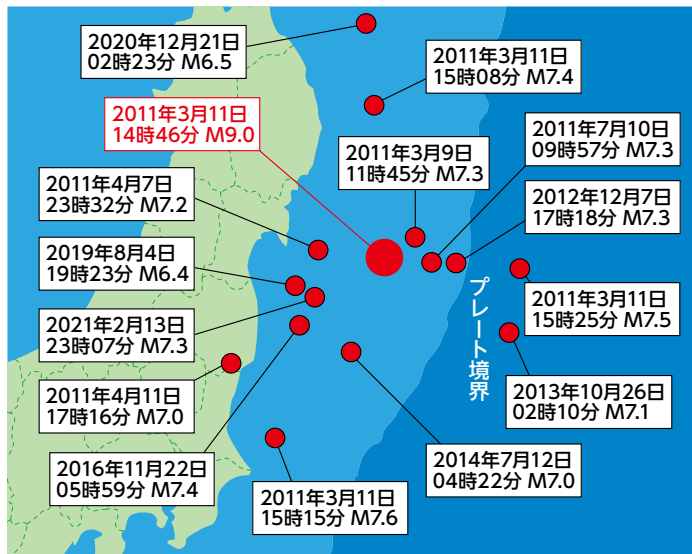


■地震を引き起こす力

世界有数の地震多発国と言われる日本列島は、地球の表面を覆う10数枚のプレートのうち、海のプレートである「太平洋プレート」「フィリピン海プレート」と、陸のプレートの「ユーラシアプレート」「北米プレート」という4つのプレートが接しあう場所に位置します。このような場所には「海溝」や「トラフ」と呼ばれる深い溝ができ、付近では海のプレートが陸のプレートの下に沈み込むことによる歪みや圧縮する力が生まれます。地震とは、この大きな力にプレートが耐えきれなくなって断層が発生、その震動が周囲に伝わっていく現象です。

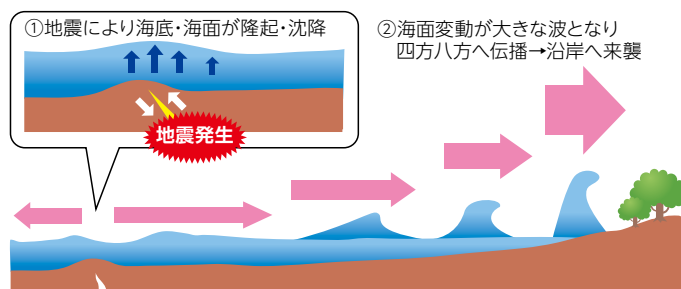
地震発生の仕組みはいくつかありますが、マグニチュード8以上の巨大地震になることもあるのが「プレート間(境界)地震」です。海のプレートと一緒に引き込まれた陸のプレートの先端部にゆがみが生じ、それが何十年、何百年という長い時間の中で解消されずに溜め込まれ、ゆがみが限界に達した時に陸側プレートの先端が元に戻ろうとして跳ね上がり、地震が発生します。また海底の大きな地殻変動によって、しばしば津波が発生します。

■東日本大震災の本震及び余震



津波は、地震の断層運動によって海底が隆起あるいは沈降、それに伴って変動した海水が大きな波となって周囲に伝わっていく現象です。海底から海面まですべての海水が動くため非常に大きなエネルギーを持っており、伝わるスピードは海が深いほど早く、浅いと遅くなる性質があります。沿岸に近づくとき次第に遅くなりますが、後ろから来る早い波が追いついて重なり、波高がどんどん高くなります。特にリアス海岸のように海岸線が陸に複雑に入り込んでいる場所では海水が両側から押されるようにして集中してしまい、波高が高くなります。

津波は反射を繰り返して何度も押し寄せたり、複数の波が重なって非常に高い波になることがあります。第1波より後の方の波が高いこともあるため、慎重な行動が求められます。



過去の大津波

自然の猛威、語り継ぐ記録

田野畑村を始め三陸沿岸は、有史以来幾度となく大きな地震津波災害に見舞われてきました。それらは辛く悲しい出来事ですが、貴重な体験談や記録を後世への「財産」として正確に伝え残すことによってこれからの災害に備え、尊い人命と財産を守ることが求められます。

江戸以前の大津波

三陸を襲った津波で最も古い記録は、平安時代の貞観津波地震です。菅原道真が編纂した歴史書「日本三代実録」には、貞観11年5月26日(西暦869年7月13日)に太平洋洋で発生した地震(推定マグニチュード8.3)に

より、多賀城(宮城県)城下に津波が押し寄せ約1,000人が亡くなったと記されています。江戸時代も、伊達藩領内から鶴住居、宮古などの岩手の沿岸までを含め2,963人が亡くなったと伝えられる慶長16年の津波(1611年12月2日)をはじめ、何度も大きな津波が三陸海岸に押し寄せ、大きな被害を出しています。

また、記録こそありませんが、田野畑村に分布する前紀白亜紀(約1億1千万年前)の地層では、当時の津波による堆積物とされる層を見ることができます。

明治三陸大津波

明治29年(1896年)6月15日午後7時32分に発生した三陸沖約150kmを震源とするマグニチュード8.5の巨大地震とその津波による災害。北海道から宮城県にかけ



明治三陸大津波(風俗画報より)

津波史上最悪の被害(死者行方不明者21,959人、流失家屋9,878戸)となりました。当時打ち上げられたとされる大きな津波石が羅賀にあり、田野畑村の死者は128人、流失家屋32戸と記録されています。

コトワザ

津波の呼び名「津波・海嘯・よだ」

記録文学の大家であり田野畑村ともゆかりの深い作家・吉村昭は、著書「三陸海岸大津波」の中で、三陸沿岸での津波の呼び名について記しています。「海嘯」は明治29年の津波来襲時に使われた言葉で、カイショウまたはツナミと読みます。しかし当時の体験記録集などで最も多く使用されていたのは「よだ」という言葉でした。吉村は、「よだ」は津波に代わる三陸沿岸の地方語であるとし、「津波は、前兆はあるが、突然のように襲いかかってくる。『よだ』という言葉のひびきには、その不気味さがよくにじみ出ているように思う」と述べています。



島越・沢村地区(昭和三陸大津波)

昭和三陸大津波

昭和8年(1933年)3月3日午前2時30分、岩手県沖約250kmの海底を震源とするM8.1の巨大地震が発生。30分程で北海道、三陸沿岸に襲来した大津波は各地で大きな被害を出し、死者行方不明者は3,064人、流失家屋4,885戸、田野畑村の死者は83人、流失家屋131戸と記録されています。



島越・沢村地区(昭和三陸大津波)

チリ地震津波



チリ地震津波(釜石市:釜石市教育委員会提供)

昭和35年(1960年)5月24日未明、日本の太平洋沿岸各地を突然大きな津波が襲いました。原因となったのは、前日の5月23日4時11分(日本時間)、南米・チリ共和国で発生したマ

グニチュード9.5という世界最大規模の地震。発生から約22時間後に、津波が日本を襲いました。この津波による死者・行方不明者は142人、負傷者855人、建物被害4万6000棟。被害は広い範囲にわたり、特に岩手県と宮城県の三陸沿岸の被害が甚大でしたが、田野畑村では人的被害はありませんでした。

コトワザ

津波の前兆現象?

明治29年そして昭和8年の大津波には、いくつもの「前兆」があったと言われています。ひとつは著しい豊漁で、明治29年の大津波の前には、本マグロの大群が海岸近くに押し寄せたと伝えられています。魚種は鯛や鰻にも及び、それと平行して沖合に怪火が出現するなどの発光現象もあったと言われています。昭和8年の大津波の前には井戸水の減少や濁水などが各地で発生しました。この時も沿岸各地では例年になく大豊漁となり、ことに鯛の大群が群をなして海岸近くに殺到、漁村は大漁に沸きました。田野畑村島越では、津波以前に大量の鮑(あわび)が波打ち際に打ち寄せられたと伝えられています。

津波を後世に伝える

記録・伝承・報道

物語・出版物

吉村昭(作家・故人)の「三陸大津波」は、明治29年、昭和8年、昭和35年の津波について、東北沿岸各地で聞き取り調査をおこなった記録文学であり、東日本大震災以降その重要性が増しています。郷土史研究家、九里十太郎氏の「明治29年・昭和8年田野畑の大津波伝承と証言」には、田野畑村の伝承や人々の話が詳細に記されています。また、柳田国男の「遠野物語」にも、明治29年の津波で妻子を失った男が、亡き妻の亡霊に出会う不思議な民話が紹介されています。

伝承・言伝え

津波でんでんこ

これまで何度も大きな津波の被害に遭ってきた三陸地方の言い伝え。「でんでんこ」は「でんでんばらばらに」の方言で、津波の時は家族さえ構わずに、自分ひとりでも高台に走って逃げろという意味です。家族や集落の全滅を防ぐため、家々で語り継がれてきました。

寝る時は、玄関の履物を揃え、衣類はきれいに畳んで枕元に置いておけ

夜寝ている時に大きな地震が来ても、直ちに身支度を整えて逃げ出せるように子供たちに言い聞かせた言葉。一見、普通の躰のように聞こえますが、この地方では津波への備えという意味で、語り継がれてきました。津波から間一髪で逃れたあとも、寒さによって落命したり、裸足により大怪我をすることがあったためと考えられています。

津波石・記念碑

羅賀地区の標高28mの地点には、明治三陸大津波で打ち上げられたとされる津波石が残っています。推定重量は約20トン。中に含まれる化石から、この岩塊は津波により、以前の場所から400m西側まで移動して来たことがわかりました。ハイベ海岸の波打ち際には以前、宮古層群の大きな岩塊がありましたが、平成23年3月11日の大津波により、山側へ15m程移動しました。羅賀地区と島越地区には明治29年、昭和8年及び東日本大震災の津波碑や慰霊碑が建立されています。



明治29年津波石



津波記念碑

賢治と自然災害

宮沢賢治の詩集「春と修羅 第二集」には、大正14年(1925年)の三陸沿岸への旅で、田野畑村羅賀の港から発動機船に乗船し、山田・釜石方面へ向かった際の旅程をうたったとされる詩「発動機船一、二、三」があります。この詩を紹介する碑が、平井賀海岸、旧島越駅跡、田野畑駅の3カ所にありました。島越の碑は、ホームも駅舎もすべて流出したなかで奇跡的に残りました。賢治は明治三陸大津波がおきた明治29年(1896年)に生まれ、昭和三陸大津波があった昭和8年(1933年)にその生涯を閉じています。人生の区切りに奇しくもふたつの大津波が発生していることは、なんとも不思議な符合のようです。



尊き「伝承」の志し

■**高山栄一さん**(大正11年生まれ・故人)

小学4年生の時に体験した昭和3三陸大津波について語り伝えていました。多感な年頃に体験した当時の津波の恐ろしさや悲しみを伝える話しぶりには重みがあり、加えて津波の発生するメカニズムやエネルギーなど、豊かな知識に基づく解説が持ち味でした。精力的な伝承活動を平成22年の秋まで続けましたが、翌年に発生した東日本大震災の2ヶ月前に他界しています。



■**九里十太郎さん**(大正15年生まれ・故人)

拓洋というペンネームを持つ郷土史研究家で知られます。田野畑村島越に生まれ、昭和3三陸大津波で被災、一時は函館市へ移住します。漁業に従事するかたわら郷土史などを研究し、平成5年3月3日、昭和津波60周年を機に、高山栄一氏らの協力を得て「明治29年・昭和8年 田野畑の大津波 伝承と証言」を発刊しました。

東日本大震災の語り部たち

大津波では、田野畑の人々は再び大きな被害と多くの犠牲を払いました。避難生活が続き、復興の先行きも見えない中、この体験の伝承活動は住民有志によって直ちに始められました。

語り部の一人、下坂弘次さん(昭和16年生まれ)は「津波とガレキは自宅の目の前で辛うじてとどまりました。津波語り部を自らがやることは肉親や家を失った他の住民に対し不謹慎ではないかと思い悩みましたが、集落の平和な一日を一瞬にして変えてしまった津波を見た者として伝えていく責任があることを悟り、やらせてもらっています」と話し、旅行者や修学旅行生の前に立っています。



報道・映像

東日本大震災は、新聞報道やテレビ映像により、発災直後から日本はもとより世界へとリアルタイムで情報発信され、巨大な津波に家々が飲み込まれていく映像は大きな衝撃を与えました。現代の通信技術は、明治や昭和の大津波では伝えられなかった大津波の猛威、そして被災地の苦しみや悲しみまでも詳細に伝えました。



岩手日報
(平成23年3月12日付)



震災直後 被災地の救助捜索活動へ出動する消防団



中隊訓練

津波・災害への備え

防災活動

田野畑村の地域防災は、村民の自主的な防災活動によって支えられており、「田野畑村消防団」「田野畑村女性消防協力隊」の他、各地区に自主防災組織や婦人防火クラブが組織されています。

これらの防災組織は、役場や宮古消防署田野畑分署と連携し、日頃から教育訓練、防火意識の高揚と啓発、警戒活動などを行っており、消防団においては、災害発生時の消火、救助、捜索など、住民の生命、身体及び財産を守るため、昼夜を問わず活動しています。総合防災訓練では、地域住民も参加し、津波避難訓練や各種訓練を実施しています。



水門遠隔操作



初期消火訓練



炊き出し訓練



放水訓練



土のう積み訓練

復旧・復興の姿

ホテル羅賀荘営業再開
(平成24年11月21日)



防災関連施設

羅賀地区消防防災センターが完成
(平成26年8月29日)



防災拠点となる中央防災センターが完成
(平成26年12月10日)

観光施設



賑わいを見せる机浜番屋群
(平成26年12月20日完成)



北山崎断崖クルーズ観光船就航
(平成26年7月26日)

地域の賑わい

第1回たのはた村産業まつり開催
(平成27年10月4日)



島越大神宮祭が3年ぶりに復活
(平成25年7月28日)



羅賀みなと祭りが2年ぶりに復活
(平成24年7月29日)

漁業



漁協自営定置網が3年4か月ぶりに操業再開
(平成26年6月30日)



漁協初売り(平成24年1月4日)

暮らし



松前沢団地(平成25年3月29日造成工事完了)
(平成25年8月6日災害公営住宅10棟完成)



羅賀東団地(平成25年10月24日造成工事完了)
(平成26年3月27日災害公営住宅7棟完成)



黎明台団地(平成26年2月27日造成工事完了)
(平成26年7月31日災害公営住宅24棟完成)



拓洋台団地(平成26年6月9日造成工事完了)
(平成26年11月26日災害公営住宅20棟完成)

三陸鉄道



カルボナード島越駅が完成(平成26年7月25日)



全線運行再開時の
カンパネラ田野畑駅
(平成26年4月6日)

ACCESS

AREA MAP



TRAFFIC INFORMATION



鉄道 TRAIN

最速での到達時間です。

東京駅	約2時間10分	盛岡駅
	約2時間50分	八戸駅
新函館 北斗駅	約2時間	盛岡駅
	約1時間30分	八戸駅
札幌駅	約6時間	盛岡駅
	約5時間30分	八戸駅



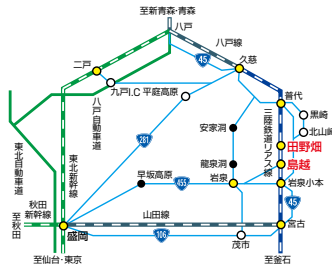
フェリー FERRYBOAT

苫小牧	約7時間30分	八戸
室蘭	約7時間	
函館	約3時間40分	青森



飛行機 AIRPLANE

札幌	約1時間	いわて 花巻空港
名古屋	約1時間10分	
大阪	約1時間20分	
神戸	約1時間30分	
福岡	約1時間50分	
東京	約1時間20分	三沢空港



八戸～田野畑

●車	八戸	約1時間10分	久慈	約1時間	田野畑
●鉄道	八戸	約1時間50分	久慈	約50分	田野畑

盛岡～田野畑(岩泉経由)

●車	盛岡	約2時間	岩泉	約30分	田野畑
----	----	------	----	------	-----

盛岡～田野畑(宮古経由)

●車	盛岡	約2時間	宮古	約50分	田野畑
●鉄道	盛岡	約2時間	宮古	約50分	田野畑

■ たのはたジオツーリズムについてのお問い合わせ ■

田野畑村役場政策推進課

〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑143-1
TEL 0194-34-2111 FAX 0194-34-2632

<http://www.vill.tanohata.iwate.jp/>

NPO法人 体験村・たのはたネットワーク

〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
北山崎ビジターセンター内
TEL 0194-37-1211 FAX 0194-33-3355

<http://www.tanohata-taiken.jp/>

